

# 会津北嶺高校 神指城跡において

## 歴史探訪と草刈りボランティアを実施

会津北嶺高校（会津若松市相生町）では、昨年の10月16日に続き、全校生約300名と教職員、会津歴史研究会の方で神指城跡の雑草除去と本丸跡の東西に通る歩道の整備を行いました。

作業前に会津歴史研究会の井上昌威会長より、神指城跡の歴史の解説をいただきました。「慶長5年（1600年）会津領主上杉景勝は鶴ヶ城の立地が山に近いことを危惧し、周囲が開けていて大川の水を利用できる神指原（こうざしはら）の地に築城を始めました。しかし、この築城工事が徳川家康に上杉征伐の口実

を与え、数カ月後の6月10日、家康の会津征伐が間近に迫ったことから工事は中止。神指城は工事途中のまま残され幻の城となりました」と。

10年ほど前までは畑が点在して農道が遊歩道として利用できましたが、近年は耕作されることもなく荒れ放題で、今



年も遊歩道が雑草木で閉ざされていました。会津北嶺高校の生徒の皆さん力で本丸を東西に走る遊歩道を再び開通させたことで、年間5000人といわれる訪問者の皆様にも歴史のロマン感じて頂けると思います」と石山校長。

※神指城跡図面に○が付いているところに案内板があります。

